

画像診断の はなし



ポータブル撮影装置 について



診療放射線部
北 由布子

ポータブル撮影装置とは、移動型X線撮影装置のことで、手術室や救急外来、病棟など、ベッドサイドでX線撮影をするための装置です。大きさは580(W)×1220(D)×1780(H)mm、重量は420kgと、移動型の機械としては院内一の大きさです。

当院では手術室に1台、院内回診用として2台のポータブル撮影装置が稼動しています。

今年の4月に新たに導入されたポータブル撮影装置にはワイヤレスタイプのフラットパネルディテクタ（FPD：平面検出器）が搭載されています。FPDはX線像をデジタル信号に変換し、画像データとして出力することができ、従来のX線フィルムに相当する役割を果たしています。



ワイヤレスFPD搭載ポータブル撮影装置の特徴として、下記のことが挙げられます。

1. 撮影後瞬時の画像確認

装置本体に組み込まれている液晶モニタに撮影後3秒で画像が表示されるため、即時に画像を確認し、次の処置への迅速な対応が可能となりました。

2. 無線LANによる画像転送・追加オーダー受診

院内無線LANを経由して、撮影した画像の電子カルテへの転送や、回診途中での追加オーダーの受信なども可能になり、回診業務を効率的に行うことができるようになりました。

3. 自由度の高い撮影

FPDと装置本体をつなぐケーブルがありませんので、狭い病室でも周囲の他の医療機器に干渉することなく、ベッドサイドの左右どちらからでもスムーズにポジショニング（撮影の位置合わせ）ができます。これにより撮影に要する時間の短縮が可能となり、患者様の身体的負担の軽減にもつながりました。

4. 被ばく量の低減

搭載されているFPDは高感度タイプであるため、少ないX線量でも高画質の画像が得られ、被ばく量を低減することが可能となりました。

上記の特徴を持ったワイヤレスFPD搭載ポータブル撮影装置は院内回診、救急撮影だけでなく、インフルエンザなどの感染症のパンデミック時や地震などの災害時の撮影にも対応できると期待されています。

今後とも、患者様が安心して診療が受けられるよう被ばく量の低減および、迅速で正確な画像情報の提供に努めたいと思います。